

## 音楽的表現活動 — 学生が捉えたもの —

安藤昌子  
飯田和也

### 1 はじめに

幼児の日常生活の中では、様々な活動がみられる。保育で行なう表現活動は、音楽、身体、造形に分けられるが、多くの場合はそれぞれが総合的に絡み合った形で実践される。音楽や表現活動を計画し実践する時に大切にしたいことは、一人一人の幼児の発達をpushした内容であることや、実践にあたっての環境を設定することである。また、実践時の幼児の予想される行動も把握して実践にあたらなくてはいけない。実習を終えた2年生へのアンケートの回答から学生が捉えた結果を分析し、幼児に音楽的活動を与える時に、発達をpushした活動とは何か、また、実践の時の環境構成や援助の方法はどうあるべきかなどを探ってみたい。

### 2 方法

- ① 幼児の音楽的表現活動を視点を「発達」において調査する。
- ② アンケート「実習園での音楽活動について」の作成。
- ③ アンケート調査  
調査対象：保育科2年生174名  
調査時期：2002年6、7月

### 3 結果及び考察

#### ○実習アンケート

「♪実習園での音楽活動について♪」の結果

- 「1」担当のクラスと人数を確認するものである。
- 「2」実習園での表現や音楽の取組みで、(①お話 ②ダンス ③劇遊び[オペレッタ] ④楽器遊び ⑤ゲーム ⑥その他)で、あなたが興味を持った取組みを1つ記入してください。

#### ●アンケート結果から得られた「実習園での取り組みと活動内容」

- ① お話では、  
5、4、3歳児⇒「素話」・「紙芝居」・「絵本」・「本テープで紙芝居」・「ピアノ・カセットテープで紙芝居」・「パネルシアター・犬のおまわりさん」  
0～1歳児⇒「音を聞きながら、お話」
- ② ダンスでは、  
5、4歳児⇒「お遊戯・動物の行進、ピクニック」・「曲にあわせて」・「運動会の練習」・「スキップジャンケン」・「花笠踊り」・「かいくぞく体操」・「おさかな天国」・「自由遊びでテープで踊る」・「モーニング娘の曲」・「輪になって体操」  
3歳児⇒「ぞうさんくもの巣」・「アンパンマン体操」・「どうぶつ体操」・「夏祭りの踊り・ソーラン節・虫さん音頭・おさかな天国」・「七夕の会」・「はとぼっぼ体操」・「プールのうた」・「小鳥のうた」・「握手でこんにちは」・「ハム太郎」・「火曜日の集会で踊る」  
2歳児⇒「七夕のお遊戯」・「スイカの名産地で踊る」・「カエルのかぞく」・「きききのこ」・「水遊びの前のおどり」・「グーパー体操」。  
1歳児⇒「キノコダンス」・「南の島のハメハメハ」・「動物体操」・「アンパンマン」・「ハム太郎」  
0～1歳児⇒「CDに合わせて・鈴」
- ③ 劇遊びでは、5歳児⇒「つばめの親子」
- ④ 楽器遊びでは、  
5歳児⇒「気のいいアヒル」・「コーデルを使った演奏」・「ピアノカの遊び(練習)」・「レーダースマーチ」・「楽器の弾き方を楽しく

学ぶ」・「音楽に合わせてカスタネットをたたく」・「和太鼓」・「音楽発表会の練習」・「鳴子・やぎ節の踊り」・「お遊戯会・ハンドベル」。

4、3歳児⇒「ハンドドラム」・「木琴の練習」・「すず・ピアノで演奏」・「ハモニカで演奏」・「歌詞、音階のカードでピアノ」・「カスタネット、タンブリンでリズム」・「七夕音楽会の練習」・「バスごっこに合わせてリズム」・「歌に合わせて演奏・ピアノ、カスタネット、タンブリン、鈴」

2歳児⇒「カスタネットでかえるのうた」

1歳児⇒「棒たたき」

0～1歳児⇒「好きな楽器・タンブリン、鈴、ふえを鳴らす」・「マラカス・手作り」

⑤ゲームでは、

5歳児⇒「じゃんけん列車」・「フルーツバスケット」・「ジャンボジャンケン」・「カードめくり」・「十文字通せんぼおに」・「あたまかた・ひざ・ぼん」・「あたまで握手」・「もうじゅうがり」・「ネコとねずみ」

4歳児⇒「音を取り入れたゲーム」・「ばくだんゲーム」・「時計ゲーム」・「あの橋がおちる前に」・「さかなつり」

3歳児⇒「椅子とりゲーム」・「リズム遊び」・「人形まわしゲーム」・「ロンドン橋・輪をくぐる」・「なりきりあそび」・「目覚めておくれ」・「だるまさんがこどんだ」・「どうぶつまわしゲーム」・「自己紹介」

2歳児⇒「動物の真似」・「あてっこ遊び」

⑥その他では、

5、4、3歳児⇒「うた」・「手遊び」・「バナナの親子の振り付け」・「大きな古時計の歌」・「月の歌」・「体操」・「太鼓の練習」・「ピアノ演奏」・「ピアノでリズム遊び」・「鼓笛」・「すもう」・「すうじの歌」・「一等賞体操」・「いたずらこねこちゃん・歌遊び」・「七夕の会の練習」・「音に合わせて踊る・カエルの歌」。

3歳児⇒「歌」・「手遊び」・「七夕の会の練習」・「歌の振り付け・プールの歌」・「動物体操」・「リズムに合わせて動く」

2歳児⇒「歌」・「手遊び」・「テープ・のりものゴー、歩こう体操」・「七夕の練習」・「リズム遊び」・「音楽に合わせて」・「てるてるぼうず作り」・「散歩」・「お風呂ごっこ」・「買い物ごっこ」

1歳児⇒「手遊び」・「さくらさくらんぼリズム」・「体操」・「七夕会」・「おさんぽ」

0～1歳児⇒「歌」・「手遊び」・「テープを聞きながら先生のまね」

学生が興味を持った活動を見渡すと、「～遊び」や「～ゲーム」「楽器のリズム打ち」や「七夕や盆踊りなど季節の行事の練習」「鼓笛」「太鼓の練習」「合奏」などが挙げられる。「お話」や「手遊び」、「絵本の読み聞かせ」の回答数は少なかった。学生は、動く活動や経験していない活動に興味を持ち、指導法をよく知っている活動や動きを必要としない活動に興味を示さなかったことが推測される。

表1は、実習園での取り組みで学生が興味を

表1：取り組み

	興味をもった活動（多い順 ⇒ — — —）					
5歳児	その他	ダンス	楽器遊び	ゲーム	お話	0
4歳児	楽器遊び	その他	ダンス	ゲーム	劇遊び	お話
3歳児	ダンス	その他	楽器遊び	ゲーム	お話	0
2歳児	ダンス	その他	ゲーム	楽器遊び	お話	0
1歳児	ダンス	その他	楽器遊び	お話	0	0
0～1歳児	楽器遊び	その他	お話	ダンス	0	0
縦割り	ダンス	その他	楽器遊び	0	0	0

持った活動を多い順にまとめたものである。表1から得られた学生が興味を持った活動を多い順にまとめると、「ダンス」―「その他」―「楽器遊び」―「ゲーム」―「お話」になる。活動を内容から見ると、「お話」や「手遊び」、「絵本」の順位が低いと思われるが、養成校での経験でお話や手遊びの方法はある程度理解ができていているので、今回の「興味を持った活動」としては順位が低く出たと推測する。学生は保育の実践経験が浅いため、保育者の実践を観察する視点が、幼児を動かす活動の方に向いていると思われる。「劇遊びやオペレッタ」は、ごっこ遊びを発展させたものである。ごっこ遊びの楽しさを十分味わってから取り組みたい活動である。実習園では春から夏の季節には劇遊びは殆んど行なわれていないことが推測された。

●環 境

「⇒物的環境で準備、用意してあったもの」で得られた回答

- 5 歳児⇒オルガン2台(先生用と子供用)、メロディベル、太鼓、バチ(子ども用)などのリズム楽器や旋律楽器。指揮棒、ドレミで書いた楽譜、カラーボックス、CDなどの視聴覚教材。椅子、子どもがのる台、ステージ、園庭に線を書く。
- 4 歳児⇒ピアノ、オルガン、タンバリン、トライアングル、木琴、ハンドベル、ウッドブロックなどのリズム楽器や旋律楽器。絵本、CD、テープBGMの曲、マイク、パネルシアターなどの視聴覚教材。舞台、椅子。
- 3 歳児⇒ピアノ、オルガン、鈴、カスタネット、タンバリンなどのリズム楽器と旋律楽器。カセット、テープ、紙芝居、ラジカセな

どの視聴覚教材。黒板に歌詞が書いてある、長いす道具。

- 2 歳児⇒ピアノ、カスタネット、タンバリン、鈴などの楽器。おもむつの替え、救急箱など(散歩用)。シール、紙、ペンなどの絵画用具。大きい箱、ペットボトル、洗面器、人形、おもちゃなどの遊具。広い部屋や場所。ハンカチ、腕輪、衣装。テープ、CD、カセットデッキなどの視聴覚教材。
- 1 歳児⇒オルガン、ピアノ、鈴、タンバリンなどのリズム楽器や旋律楽器。子どもが握れるくらいの棒などの遊具。絵本、紙芝居、CD、テープ、ラジカセなどの視聴覚教材。
- 0～1 歳児⇒タンバリン、鈴、ふえ、オルガンなどのリズム楽器や旋律楽器。カップ(マラカス)、画用紙(太鼓)CD、テープなどの視聴覚教材。

縦割り⇒ピアノ、オルガン、ハンドベル、ピアノカなどのリズム楽器や旋律楽器。紙芝居、ホール(見取り図)と進行、放送で音楽を流す、衣装、小道具、テープ、園庭に円を書く。

学生の回答から、準備、用意してあったものは保育者が使うピアノやオルガン、幼児が使うリズム楽器や鍵盤楽器類、音符やそれに代わる記号を書く画用紙や黒板や紙コップなどの用具、CDやテープ、デッキなどの視聴覚教材、椅子、長椅子。おもちゃ、人形、衣装、小道具。広いホール、園庭遊戯室などが挙げられる。低年齢の幼児の活動では使用する楽器は軽いリズム楽器が挙げられる。また、「聞く環境」としていろいろな活動の中で静かに流れる音楽も少数ではあるが捉えている。

表2：モデル (%)

モデル	5 歳児	4 歳児	3 歳児	2 歳児	1 歳児	0～1 歳児	縦割り
分かりやすい説明	24.0	28.8	27.5	16.3	13	8.3	27.3
意欲がもてる示し方	26.0	23.1	30.0	26.6	21.7	16.7	21.8
楽しそうな姿	40.0	40.4	32.5	51.0	56.6	75	45.5
むずかしそうな姿	2.0	0	0	2.0	0	0	0
その他	8.0	7.7	10.0	4.1	8.7	0	5.4

「⇒人的環境で先生のモデルはどうでしたか」  
で得られた回答

表2は、学生が回答した「先生のモデル」をまとめたものである。5、4、3、2、1、0～1歳児、縦割りとも先生の「楽しそうな姿」が、それぞれ40%、40.4%、32.5%、51%、75%、56.6%で、最も多い数値を示している。

⇒先生の「むずかしそうな姿」や「その他」で得られた具体的な回答

- 5歳児⇒先生が前に立ち指揮をする。(手で表現していた)・歌に踊りをつけてみんなで踊りながら歌えるようにしていた・手遊びを導入にしていた
- 4歳児⇒先生が子どもの間に入ったり、向かい合わせになったりして踊ったりしていた・上手にできたことをたくさん誉めていた・先生が見本となって前に出ている
- 3歳児⇒動きをオーバーにして子ども達がすぐ覚えられるように援助していた・次の動作を口で説明しながら踊り、分かりやすかった・ただピアノを弾いているだけ
- 2歳児⇒先生が踊りを分かっていない部分があった・子どもが楽しめるように面白おかしくやっていた
- 1歳児(0～1)⇒歌を歌いながら歩き、楽しい気持ちになれるよう配慮していた・保育者も一緒に行なう・教えようというやり方ではなく子ども達が楽しめるよう先生も楽しそうにやっていた

縦割り⇒子ども達と一緒にやる・あまり盆踊りを覚えていないようだった・先生はきちんと

と踊ることにこだわっていて怒ってばかりだった

先生の観察で、「むずかしそうな姿」では指導や援助のむずかしさが、「その他」では先生の子供たちを捉えた援助、指導に学生が改めて気づいたもの、発見したものがあげられている。しかし、ここで注意しなければならないのは、学生の主観による調査であるために、学生の意識として参考にしなければならない。

「⇒子どもの反応はどうでしたか」で得られた回答

表3は、園での学生が捉えた「子どもの反応」をまとめたものである。「楽しそうな様子」が最も高い数値で出ている。「ほとんどの子が集中する」は、0～1歳児クラスを省いて2番目に多い数値が出ている。「ほとんどの子～」と「楽しそうな～」を合わせると、縦割りを除いて60%以上の数値を占める。「もっとやりたそうな様子」は、3歳児を除いて10.6%～16.4%の数値である。「よく分からない～」は、1歳児、0～1歳児の年齢が低いクラスで比較的高い数値を示す。

⇒「子どもの反応」で得られた具体的な回答

5歳児⇒楽しそうにやっていたが少し難しいといった感じだが、音を出すことを楽しんでいた・先生の動きを見て真似をしていた。練習が終わって自由遊びの時も楽しそうにやっている子もいた・自分達から「やろう」と言った・メロディベルで自分の好きな音を選ぶことができたので余計楽しかった様子・お遊戯会では今までの練習の成果を出し切っていた・分かる子

表3：子どもの反応 (%)

子どもの反応	5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0～1歳児	縦割り
ほとんどの子が集中する	27.7	35.8	26.09	19.2	9.52	0	20
楽しそうな様子	44.7	43.4	47.82	55.8	57.14	61.5	43.6
もっとやりたそうな様子	10.6	13.2	6.52	11.5	14.3	15.4	16.4
ふざける子が多かった	2.1	0	4.35	0	0	0	3.6
つまらなそうな様子	0	3.8	4.35	5.8	0	0	10.9
よく分からない様子	10.6	1.9	4.35	7.7	19.04	15.4	5.5
その他	4.3	1.9	6.52	0	0	7.7	0

は楽しそうに進めていたが、聴いていない子も多く実際にやりだすと何も分かっていない子もいた・楽器が重そうだった・わいわいしていた。みんなじゃんけんに燃えていた・ピアノができない子はつまらなそうにしていた・先生の真似をしてリズムを声に出しながら楽しそうに太鼓の練習をしていた・競うことを楽しんでいた・やらされている感じがした。ちゃんとやれないと注意される・ついていけない子がいる・講師の先生がどんどん先へ進めていって分からない子はそのままだった・「上手だね」と誉めるととても嬉しそうな顔をしていた

4歳児⇒作ったものを先生に見せて喜んだり、次々といろいろ作り楽しんでいた・周りが気になり演奏をせずにはふらふらしている子もいた・お友達と笑顔でハモニカを吹く・逃げる子も鬼も真剣にでも楽しく走り回っていた・他のクラスにも見せに行ったり次の日も吹いていた・みんなが体操しているのに砂をいじって遊んでいる子がいた・みんな真剣な様子で一生懸命頑張っている姿がヒシヒシ伝わってきた・興味のある子だけカスタネットをたたいていた。リズムにあわせるのが難しそうだった・できなかつたりやらない子もいたが特に注意することなく受け止めていた・勝敗が楽しい・みんな楽しそうだったが1人言葉ができないのでルールが分からず入るのを嫌がった

3歳児⇒「おさかな天国」になると今まで踊らなかった子ものりのりで踊っていた・大きな声でニコニコと歌っていた・保育者の関わり方で子ども達の反応が変わった。楽しそうだと子ども達も楽しそうだったし、つまらなそうだと子ども達もつまらなさそうだった・3歳児は落ち着きがなかった。できない子もいた・楽しそうな子もいれば、つまらなそうにしている子もいた・席に戻る時も戻らない・新しいことにすぐ取り組めない子が数人い

て泣いていた

2歳児⇒曲がかかると嬉しそうな声を出し他事をしていた子まで集中していた・分からないからなくてぼーっと立ってる子が多かった・分かる部分は楽しそうだったが先生が分かっていない部分は子どもも戸惑っていた・2歳児なので見て踊ってもでたらめだった。しかし楽しそうに先生の真似をして上手に踊ろうとしていた・自信を持ってやれていたが本番ではギャラリーの多さに緊張して固まっている子が多かった・音楽に合わせてというよりは音を楽しんで鳴らしていた・数人の子が全く動かなかつたり疲れた子がでていた

1歳児(0~1)⇒保育士の歌に合わせて一緒に歌いながら模倣をしていた・体操で立っている子もいたがほとんどの子は先生の模倣をして楽しそうに動いていた・雰囲気によって楽しんでいる子も多かった・楽しそうにやるが何をしても5分ほどしか集中ができない・先生の姿が興味深そうで見ることによって精一杯になる・自分なりに楽しそうに表現する子がいた・月齢が低いなりに自分なりに楽しんでいた・小さい手で鈴を一生懸命握っていた

縦割り⇒とても高度なことをやって、間違えてしまう子できない子がいた・ほとんどの子は楽しそうに手遊びをやっていた・ソーラン節では「～ハイハイ」と発するのが楽しいようでテープの声が聞こえなくなるほど大きい声を出していた・みんな先生に見てもらいたがっていた・あまり歌わない子や怒鳴って歌う子もいた・一通りやって終わったが、「もっとやりたい」という声が出た・親子参加なので親がこない子は踊りたくないと言っていた・3歳児はよく分かっていなかった

●『先生の働きかけのなかみ』について特に多かったものに◎、次に多いと思われるものに○を記入しなさい。』で得られた回答

【※表4は、問いかけ(問)・助言(助)・指示命

表4：「先生の働きかけのなかみ」（多い順）

5 歳 児	○ 助 ⇒ 共 見 は 指 問 放 0 ◎ 共 ⇒ 助 指 問 見 は 0 放 0
4 歳 児	○ 共 助 見 は 指 問 放 ◎ 共 助 は 見 問 放 指 0
3 歳 児	○ 共 見 助 問 は 指 放 ◎ 助 共 見 問 指 は 0 放 0
2 歳 児	○ 共 見 問 助 は 指 0 放 0 ◎ 共 問 見 助 は 指 0 放 0
1 歳 児	○ 共 助 見 は 問 指 放 0 ◎ 共 助 問 見 指 は 0 放 0
0～1 歳児	○ 共 助 問 見 は 指 0 放 0 ◎ 共 助 問 見 は 0 指 0 放 0
縦 割 り	○ 共 助 見 は 問 指 放 0 ◎ 見 助 は 問 指 指 放 0

(※○⇒多いと思われるもの、◎⇒特に多かったもの)

令(指)・共感(共)・はげまし(は)・見守り(見)・放任(放)で表わす。】

表4は、学生が捉えた「先生の働きかけのなかみ」の結果である。5、4、3歳児をまとめると、○(多いと思われるもの)は、共感—助言—見守り—はげまし—指示命令—問いかけ—放任の順になる。◎(特に多いもの)は、共感—助言—問いかけ—見守り—指示命令—はげまし—放任の順になる。年齢の低い2、1、0～1歳児をまとめると、○(多いと思われるもの)は、共感—助言—問いかけ—見守り—はげまし—放任(0)の順となる。◎(特に多いもの)は、共感—助言—問いかけ—見守り—はげまし—指示命令—放任

(0)の順になる。

学生が捉えた保育者の「働きかけの中身」は、「共感」が最も多かった。保育の中で保育者が「共感する」という行為は、幼稚園でも保育園でも幼児の発達の方角性として重要である。「ねらい」の中にある心情、意欲、態度を大切にして、到達目標でない働きかけの中で子どもの立場になった保育の実践を観察できたことは、将来のためにプラスになったと思われる。このようなことを実習から学びとった学生の意識を高く評価しなければならない。また、実習では、「放任保育」が少なく幼児へのかかわりを大切に行っていることを理解している実態が明確となった。

表5：取り組み(%)

取り組み	そ う だ	どちらでもない	ち が う	無
5 歳 児	60.7	25	10.7	3.6
4 歳 児	75	17.9	7.1	0
3 歳 児	70.4	22.2	7.4	0
2 歳 児	64.5	19.3	9.7	6.5
1 歳 児	73.3	26.7	0	0
0～1 歳児	55.6	33.3	11.1	0
縦 割 り	71.55	15.8	12.65	0
計	67.3	22.9	8.4	1.4

「3」「実習園での表現、音楽の取組みに関するあなたの感想を具体的に記入してください。」で得られた回答

●「①積極的に取り組んでいた。」で得られた回答  
表5から、「そうだ」の回答は、5歳児では、60.7%、4歳児では、75.0%、3歳児では、70.4%、2歳児では、64.5%、1歳児では、73.3%、0～1歳児は、55.6%、縦割りクラスでは、71.55%で、「4歳児クラス」で最も高い数値が、「0～1歳児クラス」に最も低く数値が出ている。

「どちらでもない」の回答は、5歳児では、25%、4歳児では、17.9%、3歳児では、22.2%、2歳児では、19.3%、1歳児では、26.7%、0～1歳児では、33.3%、縦割りクラスでは、15.8%で、「0～1歳児クラス」で最も高い数値が、「縦割りクラス」で最も低い数値が出ている。

「ちがう」の回答は、5歳児では、10.7%、4歳児では、7.1%、3歳児では、7.4%、2歳児では、9.7%、1歳児では、0%、0～1歳児では、11.1%、縦割りクラスでは、12.56%で、「縦割りクラス」で最も高い数値が出ている。

全体では、「そうだ」は67.3%、「どちらでもない」は22.9%、「ちがう」は8.4%と回答している。「無回答」は1.4%であるが、「5歳児クラス」と「2歳児クラス」以外は「無回答」は0である。

「ちがう」と「無回答」を合わせると、9.8%の数値が出るが、この回答は実習園での「取組み」を見逃しているか捉えていないのではないかと推測する。

「そうだ」の回答が「0～1歳児クラス」で、55.6%と低い数値が出ている。また、「どちらでもない」では、33.3%と最も高い数値が出ている。この数値から、学生は低年齢児の保育での教育としての聞かせる環境で「音楽的雰囲気を保つもの」として流されるテープ、CD、オルゴールの音楽を「取組み」と捉えてえない。または、見過ごしていると推測する。

「そうだ」と「どちらでもない」を合わせて肯定していると解釈すると、双方合わせた数値は、5歳児では、85.7%、4歳児では、92.9%、3歳児では、92.6%、2歳児では、83.8%、1歳児では、100%、0～1歳児では、88.9%、縦割りクラスでは、87.35%で、学生は保育園の「取組み」を83.8%以上の高い数値で捉えている。保育園の中で、音楽に対する取組みが重要な位置を持っていることをアンケート結果からうかがうことができる。また、音楽に対する知識や技術の必要性を学生は実習体験を通して感じたと思われる。

●「②教材が工夫されていた。」で得られた回答  
表6から、学生が捉えた「教材の工夫」を、「そうだ」の回答は、5歳児では、35.7%、4歳児では、53.6%、3歳児では、33.3%、2歳児では、38.7%、1歳児では、40.0%、0～1歳児では、44.45%、縦割りクラスでは、46.3%で、4歳児では50%以上の数値があるが、他のクラスでは、50%を切った数値が出ている。「どちらでもない」の回答は、5歳児では、46.4%、4歳児では、42.9%、3歳児では、55.6%、2歳児では、41.9%、1歳児では、60.0

表6：教材の工夫（%）

教材（保）	そうだ	どちらでもない	ちがう	無
5 歳 児	35.7	46.4	14.3	3.6
4 歳 児	53.6	42.9	3.5	0
3 歳 児	33.3	55.6	11.1	0
2 歳 児	38.7	41.9	12.9	6.5
1 歳 児	40	60	0	0
0～1歳児	44.45	44.45	11.1	0
縦 割 り	46.3	41.05	12.7	0
計	41.7	47.5	9.4	1.4

％、0～1歳児では、44.45％、縦割りクラスでは、41.05％で、3歳児と1歳児クラスでは、50％以上の数値があるが、他のクラスでは、50％を切った数値が出ている。「ちがう」の回答は、5歳児では、14.3％、4歳児では、3.5％、3歳児では、11.1％、2歳児では、12.9％、1歳児では、0％、0～1歳児では、11.1％、縦割りクラスでは、12.7％で、1歳児クラスでは、0の数値が出ている。

- ・全体では、「そうだ」は、41.7％、「どちらでもない」は、47.5％、「ちがう」は、9.4％と回答している。「無回答」は、1.4％であるが、5歳児クラスと2歳児クラス以外は「無回答」は0である。
- ・「ちがう」と「無回答」を合わせると、10.8％の数値が出るが、この回答は、実習園での「教材の工夫」を捉えていないのではないかと推測する。
- ・「そうだ」(多い) > (少ない)「どちらでもない」は、4歳児と縦割りクラスが、「そうだ」=「どちらでもない」は、0～1歳児が、「そうだ」<「どちらでもない」は、5歳児、3歳児、2歳児、1歳児クラスが、出ている。「5、3、2、1歳児クラス」では、「そうだ」の数値が「どちらでもない」の数値と逆転して出ている。これは園での「教材の工夫」を捉えていない、または見過ごしていると推測する。

学生が捉えた実習園での「取り組み」と「教材の工夫」の結果から、「取り組み」と「教材の工夫」の値の差を見ると、25.6の差が出た。実習時期は7月で、盆踊りや、お遊戯会などの季節の行事を控えている時期で、それらの行事に向けての多忙で大変な時期でもあることも推測された。それぞれの幼児の発達や日々の様子の変化、活動の好み、暑さなどいろいろな要因によって幼児も変化している。幼児の発達に合った楽器や道具、発達に合った活動で、幼児自身が楽しいと思う指導、援助が大切である。

また、学生の回答から低年齢児の保育では、養護の中で行なわれる、教育としての聞かせる環境で音楽的雰囲気を保つものとして流されるテープ、CD、オルゴールの音を音楽活動と捉えてえない。または、見過ごしていると推測される回答が少数あった。

### 「3」「実習園の経験であなたは表現や音楽活動

をどのように幼児に与えますか。工夫を具体的に記入してください。」で得られた回答

- 5歳児⇒子ども達は曲を完成させることより自分自身で音を出すことを楽しんでいたと思う・椅子の設置などを工夫して、全員に目がいきとどくように環境を整える・子どもがやりたいと思えるような先生の姿と押し付けないことが大切だと思いました。まず自分が心の底から楽しんで行なうことを心掛けていきたい・まずは、きちんとした音楽を演奏することよりも音に親しみ、楽器を鳴らしたりする楽しみが味わえるようにしていく・普段おとなしい子どもでも音楽を導入することによって、とてもものびのびやっていたので、音楽は必要だと思った
- 4歳児⇒言葉かけの代わりにピアノの音で伝えるという先生がいて(怒る代わりに悲しそうに曲を弾いて気づかせる)とても素敵だと思いました・ピアノの代わりとしてバイオリンを使ったが、代わりとしてだけでなく効果的に取り入れたい・音楽の楽しさを伝えるためには、保育者が楽しそうにやること、分かりやすい示し方をしなければならぬことが分かりました。導入の部分も大切であり、もっと勉強したいです・全体を見る眼と個人を受けとめるという余裕のある保育をしていきたい・ピアノの教え方がとても厳しかったので、楽しみながらできるようにしたい
- 3歳児⇒導入を楽しめるようにする。自分が楽しそうにする・言葉かけ一つで子どもの動きが変わるので、言葉かけを大切にしなければならぬ・年齢によって音楽に取り組む内容が違っていった。年少は体操で、年中は打楽器で、年長はピアノで音楽を楽しんでいたもので、年齢による配慮をしたいと思いました・先生を見て一番に思ったのは、先生が楽しまなければ子どもも楽しくないということでした「やるよ」と言って始めるのではな



く、子ども達が普通にリズムと関われる環境が大切だと思いました・計画をしっかり立ててからでないとい音楽活動に入ってはいけない事が分かりました。楽器など約束事をきちんと子ども達に伝え、子どもが混乱しないように活動をしていかななくてはいけないことが分かりました・自分自身がモデルとなるように工夫したい。自分自身が楽しくやれば子ども達も楽しんでやると実感しました

2歳児⇒ピアノが保育室にありませんでした。どうやって歌い始めようと戸惑って、「さんはい」と言いましたが、上手くいきませんでした。先生のやり方を見ていたら、口で前奏をうたっていました。子どもにとって馴染みやすく歌いやすいやり方を提供できる方法を知って、そのように行なうことが大切だと思いました・今回、かえるの踊りで「ウー!!」とみんなで叫ぶ部分があり、そこをとても楽しそうにやっていた。何かポイントがあることは大事だと思いました・保育者が楽しく説明する姿がやっぱり子ども達に興味を湧くと思います。子どもと共感しながら楽しむことが大切だと思います・雨の日ばかりなので、お遊戯室でテープをかけて体を動かした。とても楽しそうに動かしていたので、音が分からなくても、幼児・乳児には必要だと思いました

1歳児⇒手遊びも子ども達がやりたくなるようにすごく大げさにやりました。すると、みんな真似をしてくれてよかった。1歳児は何気に何でもできてスゴイ・楽しくできるように座る位置、立つ位置を考える・砂遊び、ブロック遊び、おむつ交換など生活の中で歌を口ずさむと子ども達は興味を持ったようだった・一斉に教えるのも時には大切だと思うが、遊んでいる時にさり気なく歌ったりして自然に歌を覚えていくというのも良い方法だと思った・子どもは音に合わせて体を動かすのが好きだということが分かっ

た。聞いて楽しい踊って楽しい曲を探して、雨の日など部屋の中で体をいっぱい動かすことのできるよう、手本となるように楽しい姿で、一緒に踊ることができるようにしたい・子どもが楽しんでできるように、先ずは自分自身が楽しんでやる、これが大切!・楽しい雰囲気になったり落ち着きを取り戻したりするので、何気に音楽を流しておくのもいい

0～1歳児⇒年齢が低い場合、音を楽しむ環境を作りたい。ただ鈴を鳴らしながら歌ったりするだけでも楽しめる・乳児は月齢によって集中時間、できること(振る・たたく・握る)が全く違うので、最初は興味を持たせ、長く楽しめるようにすぐには片付けず、無理にやらせない・とり合えず自分が楽しむ姿を見せることにより、乳児も楽しくなるだろうと思う。踊りもうまいことできないけれど、音楽を感じる様子が体全体で表現している姿が見られてよかった

学生は保育者自身が音楽を楽しんでいる姿を観察し、音楽にかかわりたくなる言葉掛けや説明が重要であることを実習を通して理解している。そして表現のための活動のテクニックをもっと知りたいと思っていることも理解できる。

#### 4 おわりに

##### ●発達の理解

幼児の心を理解するうえで保育者が大切にしたい視点は、幼児の心の発達理解と受容、援助である。乳幼児保育では、乳幼児の保育者への「甘えの欲求」は保育者に受け入れられることによって、保育者との間に求め、求められるという人間関係ができる。その結果保育者への信頼感を持つようになり、「将来人間として必要な心、人間の中心的な力である『優しさ』『尊敬』の基礎が作られる。」

幼児期の前半は、子どもの心に「自我」が芽生えてくる時期で、保育者は幼児との信頼関係を大切にしながら幼児の主体性の発達をpushした援助活動をしたい。

幼児期後半は、「大人からの社会的・現実的要請

(習慣形成、きまりの遵守、文字・数のような記号化された知識の課題)にも、主体的、意欲的にしようとする～自我の力」が備わってきて、このような社会的な要請に「自分から、自分の力」で直面していこうとする。(注1)

このような幼児の成長や発達を押さえた音楽表現の中における援助が大切である。

### ●音楽活動で保育者の大切にしたいこと

音楽活動で大切にしたいことは、第1に幼児の創造性を育てるための援助の方法である。幼児の活動の中で自然発生的な遊びが出現した時、様々な動きが幼児の素朴な表現として出てくる。無意識のうちに歌を歌ったり言葉が出たり、それに伴う動きが表現される。これらの無意識の表現を保育者が意識の場に持ち込むことで再現させた時、幼児の無意識の表現は意識された、より豊かな表現活動として成り立つ。表現する手段は、歌や言葉、身体表現、楽器その他いろいろであったりするが、素朴な形で発生した表現がより豊かな活動に発展していく過程は、保育者がではなく、幼児自身が様々な音を意識し自分で判断した喜びを与え、様々な道具や楽器で音を創造した充実感を味合わせることである。

第2に内容が幼児の発達や環境を押さえた活動になっていることである。日常保育や行事、発表会に向けての歌唱や合奏・鼓笛などの、過剰な練習時間や幼児の演奏能力以上の無理な技術指導を行っていないか。できない幼児や集中できない幼児の扱いが放任になっていないか。与える教材は、幼児の発達を押さえたものになっているか。また、幼児の感性を育てる創造的な内容であるか。環境設定(人的・物的・場)が成されているか。が挙げられる。

回答結果から、保育者の役割をまとめると、指導計画案は具体的に細かく作成することは当然であるが、幼稚園や保育園の指導計画で最も重要な目標を具体化した「ねらい」の捉え方である。「ねらい」は発達の方向性であり、乳幼児が音が聴けた喜び、そして音がつくれた充実感、音を作るときに友達と合わせた喜び、創りだす時の工夫する態度、楽器を大切にすることを養うことである。また、幼児自ら音楽的環境に関われるように幼児の興味、関心に合った楽器を準備することは

重要である。幼児の主体的な生き方を助長するために音楽的環境を工夫し、それを指導計画の環境構成に立案する必要がある。当然、物的環境だけでなく、保育者の楽器に関わり音を楽しむ人的モデルができるように、音楽表現の知識や技術を高める努力が必要となる。学生は「音楽をさせる」から「音楽と一緒に楽しむ」ことの大切さを理解できたようである。今回の意識調査の結果から、保育士養成の中の音楽的表現における講義、演習の中で、さらなる研究を深めていきたい。

### 【引用・参考文献】

幼稚園教育要領

保育所保育指針

無藤 隆・高橋恵子・田島信玄：発達心理学入門 青年・成人・老人、東京大学出版会、1990

無藤 隆・高橋恵子・田島信玄：発達心理学入門 乳児・幼児・児童、東京大学出版会、1990

浜田寿美男：発達の理論—明日への系譜、ミネルヴァ書房、1996

黒川健一：表現 新幼稚園教育要領、ひかりのくに、1990

岸井勇雄・小林龍雄・高木義太郎・朽尾 勲：表現Ⅱ 音楽的表現(改訂版)、チャイルド本社、2000

大岡治恵：愛知県音楽療法研究会7月定例会「言語聴覚障害論」の「小児の言語聴覚障害」で小児の発達をまとめている、2002.7.24

飯田和也：一人ひとりと向き合う子育て、北大路書房、2002

角尾 稔・小林美実・林 健造・清水俊夫：領域表現、同文書院、1990

田中敏隆：幼稚園・保育所の保育内容—理論と実践—保育表現Ⅰ(音楽)、田研出版株式会社、1992

幼稚園専門教養研究会編：幼稚園専門教養と問題、大阪教育図書株式会社、2001

荒木紫乃：表現—幼児と音楽—、文化書房博文社、1995

注

1) 国際子ども研究所資料、保育指針に基づく内容の展開、1-3、2000

## **Musical Expression**

### **— From the Results of the Student's Practical Training —**

Ando, Masako\* Iida, Kazuya\*

2年生に実習の後、アンケート「実習園での音楽活動について」を行なった。調査内容は、「実習園での表現や音楽の取り組みで学生が興味を持った取り組み」、「実習園での表現、音楽の取り組みに関する具体的な感想」、「実習園での経験で表現や音楽活動をどのように幼児に与えるか」である。実習園での表現や音楽の活動の中で学生が興味をもった活動について、【取り組みの内容・環境（物的、人的）・発達・援助の中身を学生は捉えているか、実習経験で得られたものは何か】を調査する。得られた回答結果を幼児の年齢別に分類し、音楽的表現を環境、発達、援助に視点を置いて考察することで、園での表現活動を実践する時に保育者として押さえておきたい発達や環境構成、援助とは何かを考察し、今後の指導に繋げたい。

キーワード：音楽表現活動，実習結果，発達，環境，援助